

令和元年度進行管理・評価シート
高山市歴史的風致維持向上計画（平成30年3月26日認定）
（最終変更 令和2年2月19日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 計画の推進体制	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 景観計画との連携	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 歴史的建造物活用整備事業	3
2 歴史的町並保存事業	4
3 景観重要建造物等修景事業	5
4 伝統構法木造建築物耐震化事業	6
5 無電柱化等事業	7
6 町並み景観保全事業	8
7 屋台保存事業	9
8 伝承芸能保存事業	10
9 郷土の歴史・文化の語り部育成事業	11
10 伝統行事担い手支援事業	12
11 文化遺産・地域資源活用調査事業	13
12 町並み歩行空間創出事業	14
13 スポット整備事業	15
14 城山公園等整備事業	16
15 日本遺産活用整備事業	17
16 まちの博物館外国語対応事業	18
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の修理事業、周辺環境の整備事業等	19
2 文化財に関する普及・啓発の取組等	20
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 新聞報道	21
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 外国人観光客数の推移	22

□法定協議会等におけるコメントシート(様式2) 23

評価軸①-1
組織体制

項目	評価対象年度	令和元年度
計画の推進体制		現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 計画の推進にあたっては、都市計画課と文化財課が事務局を務め、各事業の実施については、各事業担当課と連携調整を行うとともに、文化財所有者や周辺住民、関係団体や事業者等と協議・調整を行うものとする。また、必要に応じて国や岐阜県、各審議会と協議を行い、助言や支援を得るとともに、法定協議会である高山市歴史的風致維持向上計画協議会において、計画の推進や計画変更、円滑な事業の実施に向けた協議を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

都市計画課と文化財課の連携の下、計画の推進を図った。
 各事業の検討においては、事業所管課を中心に関係各課との連携を図るとともに、地元住民や関係団体等と意見交換を重ね、事業の推進を図った。住民等との意見交換により、事業に対する地元の理解を深めることができた。
 計画の進行管理・評価においては、令和元年度進捗評価を実施し、その評価結果について法定協議会である「高山市歴史的風致維持向上計画協議会」から意見聴取を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

■法定協議会への協議状況

○高山市歴史的風致維持向上計画協議会(書面会議)
 意見聴取期間 令和2年5月18日～6月3日
 (議題)
 ・令和元年度進行管理・評価について

→各委員からの意見に対する回答や今後の対応については、
 全委員に書面にて報告

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	令和元年度
		現在の状況
景観計画との連携(屋外駐車場の景観形成基準)		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 城下町高山の大部分を「城下町景観重点区域」、「風致地区景観重点区域(城山、北山、東山)」及び「中心商業景観重点区域」に指定しており、建築物や工作物と併せて屋外広告物についても細かい規制を実施している。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

観光客の増加に伴う大規模なホテルの進出や空地となった土地などの活用によって、中心市街地における駐車場の新設が増加しており、これらの設置により連担性のある家並みなどの良好な町並み景観が乱れるおそれがあるため、高山市景観計画に駐車場に関する景観形成基準を新たに規定し、平成31年4月より適用を開始した。
 本年度は、高山駅から重点区域への重要な動線となる道路沿いにおいて時間貸し駐車場の新設があったため、景観まちづくり刷新支援事業を活用し、基準に基づいて板塀の設置を行った。
令和元年度実績
 ・屋外駐車場への板塀設置 1件

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

景観形成基準の適用により板塀の設置が行われた駐車場



整備前



整備後

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
歴史的建造物活用整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成30年度～令和6年度		
支援事業名	景観まちづくり刷新支援事業		
計画に記載している内容	歴史的建造物の保存・活用を図るため、空き家となった町家等を取得又は借上げのうえ修理・修景を行い、地域の歴史的風致の核となる施設として整備する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成29年度から整備に取り組んできた、下二之町大新町伝統的建造物群保存地区内の大規模な町家(旧村田邸)を活用した若者等活動事務所について、改修整備工事を終えて3月末に完成した。 この施設は、次代を担う若者がまちなかに集まり、様々な活動を通じて地域への誇りと愛着を育むとともに、地域全体の活性化や持続可能なまちづくりに繋げることを目的としており、令和2年4月からの運用を予定している。 地域の歴史や景観に配慮した建物改修により、歴史的建造物の保存・活用や町並み景観の向上が図られた。 <input type="checkbox"/> 令和元年度実績 ・建物改修等工事 一式			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

改修前



改修後



完成した若者等活動事務所
愛称は「村半(むらはん)」に決定

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度
			現在の状況
歴史的町並保存事業			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	昭和54年度～令和6年度		
支援事業名	重要伝統的建造物群保存地区保存事業		
計画に記載している内容	重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の修理及び外観の修景、防火対策に要する経費の一部を助成することにより、歴史的な建造物の保存を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の計画的な修理や修景を実施することにより、建造物の適切な保存や町並の景観保全を図ることができた。また、防火帯としての土蔵の修理を行い、伝建地区内における防火帯維持を図ることができた。			
□令和元年度実績 ・伝統的建造物群保存地区保存修理事業 修理補助5件(修理4件、修景1件) ・伝統的建造物群保存地区防災対策事業 修理補助6件			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

伝統的建造物群保存地区保存修理事業により修理が行われた住宅



修理前



修理後

伝統的建造物群保存地区防災対策事業により修理が行われた土蔵



修理前



修理後

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
景観重要建造物等修景事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成26年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	景観重要建造物の外観を維持するために必要な修理や修景に要する経費の一部を助成することにより、まちの景観形成の核となる建造物の保全を図る。 市街地景観保存区域内において行われる建築物の新築・修理等の行為が、伝統的な意匠を基本とした一定の基準を満たす場合に、当該行為に要する経費の一部を助成し、町並み景観の保全を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
景観重要建造物の外観を維持するために必要な修理、市街地景観保存区域内の建造物における一定の基準を満たす建築行為に対して助成を行った。歴史ある建造物の維持保全にかかる所有者の経済的負担を軽減するとともに、建造物の形態や意匠等の無秩序な変更を防ぐことにより、周辺の景観と調和した趣のある町並みが保全された。 <input type="checkbox"/> 令和元年度実績 ・景観重要建造物修景事業補助:重点区域内2件、重点区域外1件(H30:0件) ・市街地景観保存区域建造物修景事業補助:重点区域内8件(H30:10件)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

市街地景観保存区域建造物修景事業により修景が行われた建造物



修景前



修景後

評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
伝統構法木造建築物耐震化事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成26年度～令和6年度
支援事業名	市単独事業

計画に記載している内容
 建築基準法施行前に建築された木造建築物は、現在の建築基準法に基づく耐震診断を行った場合、耐震性が非常に低いという結果が出てしまうが、反面、柔らかさや粘り強さがあるという特徴があることから、その特徴に応じた耐震診断や耐震改修工事を行うための「高山市伝統構法木造建築物耐震化マニュアル」を平成25年度に作成した。このマニュアルに基づいて行われる、伝統的な木造建築物の耐震診断や耐震改修工事に対して補助金を交付する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で
 平成25年度に作成した「高山市伝統構法木造建築物耐震化マニュアル」に基づいて行われた、伝統的な木造建築物の耐震診断や耐震改修工事に対して補助を行った。耐震性の向上により、継続的に居住できる環境と伝統的な建造物の維持が図られた。
令和元年度実績
 ・伝統構法木造建築物耐震化事業補助 耐震診断:2件(H30:2件) 耐震改修:1件(H30:4件)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



耐力壁(板壁)の設置による耐震化

現行の建築基準により耐震改修を行うと歴史的な建築物の形態・意匠を維持できないことが多い。
 上の写真は、耐震補強金物を用いず板壁で耐力壁を設けることで、形態・意匠の維持と柔らかで粘り強い伝統構法木造建築物の特性に応じた耐震改修を行った箇所。

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
無電柱化等事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成29年度～令和6年度

支援事業名 景観まちづくり刷新支援事業

計画に記載している内容 高山駅方面から三町伝統的建造物群保存地区や飛騨高山まちの博物館へつながる通り等において、伝統的な町並み景観の再生を図るため、景観を阻害している電線等を地中化するとともに、車道・歩道・側溝等について景観に配慮した整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

当該路線には無電柱化に必要な地上機器の設置位置の確保が困難なことや、既設地下施設(NTT幹線管や下水道管)と新設する電線共同溝施設との離隔が確保できないことなどの課題があるため、今年度、電線管理者(中部電力株)との共同研究による設計を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

電線管理者との共同研究により、最低限必要な地上機器の位置や基数が確定したが、路上に置く必要があるため、今後地元との協議を行いながら進める必要がある。

状況を示す写真や資料等



無電柱化予定路線の現状



無電柱化整備後イメージ

評価軸③-6
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度
			現在の状況
町並み景観保全事業			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	平成21年度～令和6年度		
支援事業名	集約促進景観・歴史的風致形成推進事業、市単独事業		
計画に記載している内容	良好な町並み景観の創出を促進するため、景観に配慮した形態意匠の看板を設置する場合や、板塀や生け垣を設置する場合等に補助金を交付する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高山の景観にふさわしい看板の設置やふさわしくない看板の撤去、生垣や板塀等の設置に対し補助を行った。 平成29年4月から運用を開始した屋外広告物掲出の新基準に適合しなくなった看板については、撤去・改修に対する3年間の特例補助制度を設け、所有者に対する個別協議により是正の促進を図ったことにより、多くの看板の撤去、改修が完了し、町並み景観の向上に大きく貢献した。			
<input type="checkbox"/> 令和元年度実績 ・看板設置及び撤去補助:重点区域内12件 重点区域外15件(H30:計19件) ・生垣設置補助:重点区域外5件(H30:3件) ・塀等設置補助:重点区域内5件 重点区域外12件(H30:計6件)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

高山の景観にふさわしい看板補助金の活用により撤去された看板

高山陣屋周辺



撤去前



撤去後

下二之町大新町伝統的建造物群保存地区内



撤去前



撤去後

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
屋台保存事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	屋台修理:昭和39年度～令和6年度 保存活動への助成:平成2年度～令和6年度		
支援事業名	屋台修理:重要有形民俗文化財修理、防災事業 保存活動への助成:市単独事業		
計画に記載している内容	非常に価値の高い意匠を持つ高山祭の屋台の保存管理については、専門的な技術による管理やからくりの伝承等が不可欠であるとともに、屋台の修理には多額の資金が必要である。必要に応じて学識経験者等の指導・助言を得ながら、屋台修理・屋台蔵修理を計画的に実施するとともに、屋台の保存に関わる団体の活動に対して助成を行い、屋台の保存を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高山祭屋台の保存修理事業を行い、将来への屋台の継承に寄与した。 <input type="checkbox"/> 令和元年度実績 ・大国台、宝珠台、神馬台、布袋台、鳩峯車修理 高山祭屋台の保存防災施設である屋台蔵の修理を実施し、防災・防犯の機能を回復させた。 <input type="checkbox"/> 令和元年度実績 ・三番叟屋台蔵修理 高山祭の屋台を保存する活動を行う団体に対して補助を行ったことにより、屋台の保存や修理技術の継承に寄与した。 <input type="checkbox"/> 令和元年度実績 ・高山祭屋台管理費補助金 1件 (高山屋台保存会) ・からくり屋台管理技術伝承保存補助金 1件 (高山屋台保存会) ・高山祭屋台保存技術伝承保存補助金 1件 (高山・祭屋台保存技術協同組合)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



宝珠台の組み立て



高山・祭屋台保存技術協同組合が参加した研修会の様子

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況
伝承芸能保存事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成2年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 市内各地で行われている伝承芸能、祭礼活動等は、そこに住む人々の教養や娯楽、環境等から生まれた特有の文化であり、地域の誇りである。しかし、近年、後継者の不足や保存会活動費の不足等で伝承していくことが困難となっている。これらの保存活動に対して助成を行うとともに、記録映像を作成し後継者育成に活用することで、後世への継承を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

地域の伝承芸能の保存団体に対して活動助成を行ったことにより、伝承芸能の継承に寄与し、地域の誇りの醸成に貢献した。

- 令和元年度実績
- ・伝承芸能保存団体補助金:20件

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

■伝承芸能保存団体

高山市子供伝承芸能連合保存会	伊勢神楽保存会
岩滝民謡保存会	ひねりの舞保存会
飛騨総社親子獅子舞保存会	荘川民謡保存会
高山民謡保存会	一之宮町子ども会鬮鶏楽伝承会
下切町金蔵獅子保存会	桐谷槍獅子保存会
飛騨東照宮おかめ・獅子舞保存会	金桶金蔵獅子保存会
飛騨天満宮徳兵衛獅子舞保存会	広瀬金蔵獅子保存会
千島白山神社獅子舞保存会	荒城神社無形文化財保存会
錦山神社徳兵衛獅子保存会	上広瀬金蔵獅子保存会
新宮町伊勢神楽保存会	
宗和流四常社	



飛騨東照宮おかめ・獅子舞保存会によるおかめ舞

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
郷土の歴史・文化の語り部育成事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成30年度～令和6年度
支援事業名	市単独事業

計画に記載している内容 多くの市民が郷土の歴史・文化を語るができるよう、高山市が認定する歴史ガイドマスターが講師となり、市民による「語り部」を育成することで、後世への継承を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

高山の歴史・文化・自然・ガイド技術などについて学ぶ、語り部養成講座を開催した。参加した市民、ガイドボランティア、観光業者等の方々は、語り部としての活動に役立つ知識や技術を習得することができ、語り部としての資質の向上に寄与した。

令和元年度語り部養成講座開催実績

- ・開催回数:1回(全4講)
- ・参加延べ人数:71名

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



語り部養成講座の実施状況
 (令和元年11月30日)

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
伝統行事担い手支援事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 祭りなどの伝統行事の継続に苦慮している地域において人材の確保を図るため、地域内外から伝統行事の担い手として高い志を持った人を募り、伝統行事の実施者と支援希望者をマッチングさせるための人材登録・斡旋を目的とした仕組みの構築及び組織化を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

今年度は、(一財)地域伝統芸能活用センターが運営する「まつりーと」を活用した担い手支援策を、地元神社及び屋台組に対して提案を行い、説明会を開催した。その結果、興味を示した屋台組もあったが、最終的に参加の意思表示はなかった。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

今後も祭り関係者との意見交換を継続させ、他地域の事例等の収集を行いながら、より効果的な対応策を検討する。

状況を示す写真や資料等



地元説明会の様子
(令和元年6月24日開催)

評価軸③-11
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度
文化遺産・地域資源活用調査事業		現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間	平成30年度～令和2年度
支援事業名	市単独事業

計画に記載している内容
高山祭の屋台は、国指定文化財の23台(山王祭、八幡祭)、県指定文化財の2台(飛騨総社、東山白山神社)が現存しているが、かつては更に多くの屋台が存在していたことが知られている。また、旧町村地域にも現在は使われなくなった屋台が蔵に保管されているほか、詳細な調査が行われていない地域資源も存在している。これらの文化遺産等について、現存する資料の把握や現地調査、聞き取り等により、その歴史的経緯や現状について調査を行い、保存・復刻・活用等を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

三日町白山神社神楽台及び、100年近く曳かれることのなかった東山神明神社の神楽台の調査を行った。また、屋台に関連する染織品と年輪年代調査も行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
--	--------------------------

状況を示す写真や資料等



東山神明神社神楽台の調査

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
町並み歩行空間創出事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成29年度～令和6年度
支援事業名	景観まちづくり刷新支援事業

計画に記載している内容 重要伝統的建造物群保存地区及びその周辺の通りにおいて、景観に配慮した舗装・側溝の整備による美装化や、外縁部の駐車場からの誘導ルートとなる人道橋の新設などを行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

宮川朝市通りにおいて、地元産自然石を骨材に使用した舗装や景観配慮型の側溝、外灯の設置や植栽の再整備による修景整備を行ったことにより、観光スポットである宮川朝市の文化的景観が創出された。
 市道上二之町大新町線、市道千島松本線において、自然石の使用などによる景観配慮型の側溝修景整備を行ったことにより、町並み景観と調和した、潤いのある歩行空間が創出された。
 宮川朝市通りがある宮川右岸と、本町通り商店街のある宮川左岸とを結ぶことで新たな歩行ルートを確認し、まちなかにおける観光客等の回遊性を高める(仮称)宮川人道橋について、上部工及び下部工の工事を進めた。令和2年6月末の完成を予定している。
令和元年度実績
 ・宮川朝市通り修景整備(施工延長 L=331.3m)
 ・市道上二之町大新町線ほか修景整備(施工延長 L=689.7m)
 ・人道橋整備(上部工工事・下部工工事ほか)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

宮川朝市通りの修景整備状況



整備前



整備後

評価軸③-13

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
スポット整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成21年度～令和6年度		
支援事業名	景観まちづくり刷新支援事業		
計画に記載している内容	観光客が楽しく快適にまちを巡ることができる歩行空間を創出するため、主な動線にまちかどスポット(お休み処)を整備する。整備においては、景観に配慮したベンチや植栽等の配置を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
市内各所のまちかどスポットの地図看板の表記を統一したものに更新し、周辺道路の修景整備と相まって歩行空間の魅力及び利便性の向上を図った。 <input type="checkbox"/> 令和元年度実績 ・まちかどスポット看板修景 N=15箇所			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

江名子川右岸スポットの整備状況

整備前



整備後



評価軸③-14

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
城山公園等整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成30年度～令和元年度		
支援事業名	景観まちづくり刷新支援事業		
計画に記載している内容	高山城の当時の面影を感じることができる城山公園内遊歩道や、金森氏ゆかりの寺院が連なる東山遊歩道において、多言語表記等により、案内表示の再整備を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
城山風致地区内の東山遊歩道において、老朽化した案内板の再整備を行った。整備においては、景観に配慮したデザインとしたほか、外国人に対応するため多言語表示(5ヶ国を基本)とし、観光客等の周遊性の向上に寄与している。 <input checked="" type="checkbox"/> 令和元年度実績 ・東山遊歩道の案内板整備(更新1箇所)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			

東山遊歩道の案内板整備状況(整備後)



整備前盤面



整備後盤面(拡大)



評価軸③-15
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
日本遺産活用整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成28年度～令和元年度		
支援事業名	景観まちづくり刷新支援事業		
計画に記載している内容	「飛騨匠の技・こころ一木とともに今に引き継ぐ1300年ー」が日本遺産に認定されたことを受けて、ストーリーを構成している多数の文化財を紹介する案内表示の整備等を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高山祭の各屋台蔵に設置してある屋台説明看板について、より見やすく、わかりやすいものとなるよう更新を行った。更新においては、最新の研究成果や情報を盛り込み解説内容も新たなものとしたほか、屋台の動画や詳細な解説へ簡単にアクセスできるようQRコードを設置した。 また、飛騨匠フォーラムにおいては「年輪」をテーマに講演会とイベントを実施した。職人による鉋削りや樽へぎの実演には外国人観光客や子どもも多く参加し、また講演会では建造物や祭屋台など市内の日本遺産構成文化財の年輪年代測定の結果を中心に報告が行われた。 上記事業により、観光客及び市民に対する普及啓発が促進した。 <input type="checkbox"/> 令和元年度実績 ・屋台説明看板の刷新 25件 ・飛騨匠フォーラムの実施(市単独事業) 参加者数:講演会60名、体験200名			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



飛騨匠フォーラムでの実演の様子



飛騨匠フォーラムの様子
(令和元年12月8日)



屋台説明看板の刷新(更新前)



(更新後)

評価軸③-16

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和元年度
項目	現在の状況	
まちの博物館外国語対応事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 外国人観光客の増加に伴い、外国人観光客が多く立ち寄る飛騨高山まちの博物館において、展示物の説明表示を多言語化するとともに、外国語で展示内容や高山の歴史文化を説明できるガイドを養成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

飛騨高山まちの博物館ボランティアガイド有志が、多言語ガイドに関する勉強会(多言語ボランティアの会)を実施した。また地域通訳案内士へ、まちの博物館主催「語り部養成講座」への参加を呼びかけ、参加があった。両事業に参加したボランティアガイドや地域通訳案内士は、外国人へのガイドを行う際に必要な、高山の歴史・文化についての具体的な知識や手法について習得することができ、ガイドの資質向上に寄与した。

- 令和元年度実績
- ・多言語ボランティアの会
開催回数:5回、参加延べ人数:25名
- ・「語り部養成講座」への地域通訳案内士の参加:8名

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

ボランティアガイド有志による勉強会(多言語ボランティアの会)開催状況

開催日	時間	参加人数
5月12日	13:00～17:00	5
6月15日	13:00～17:00	5
8月31日	13:00～17:00	5
9月29日	13:00～17:00	5
10月19日	13:00～17:00	5
合計	開催回数	5
	参加人数	25



語り部養成講座の様子
(令和元年11月30日)

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
文化財の修理事業、周辺環境の整備事業等		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	指定等文化財については、適切な保存が図られるよう計画的に修理を実施する。文化財指定建造物のほとんどが木造であり、火災や地震に対し脆弱であるため、火災報知設備の設置や耐震対策を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
市指定文化財の計画的な修理や防災対策を実施することにより、適切な保存を図ることができた。防犯については、巡回員などの監視に委ねられているが、今後とも所有者の意向を踏まえながら必要に応じ設置を検討していく予定である。			
□令和元年度実績 ・指定文化財の保存修理事業 4件 (市指定:岩井神社本殿、角竹庭園竹塀、一色白山神社拝殿萱葺屋根、芳国舎洪草陶磁器製造所型枠倉庫)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

角正庭園竹塀修繕工事



岩井神社本殿修繕状況



一色白山神社拝殿萱葺屋根修繕状況



評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
文化財に関する普及・啓発の取組等		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 飛騨高山まちの博物館については、市の歴史民俗資料の保存活用の中心施設として、郷土教育や伝統文化の継承の場としても活用を図っていく。
 文化財に関する講座の開催や出前講座の開催等、文化財の保存及び活用に関する普及啓発を、様々な機会を使って実施する。
 町並み保存団体、屋台組をはじめとする文化財を保存・活用する各種団体については、活動への助成、情報提供、研修等を通じて組織の維持と活性化を支援していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

飛騨高山まちの博物館において、特別展を年4回開催し、趣向を凝らした展示により多くの来館者に高山の歴史や文化にふれていただく機会を提供し、下記の成果を得た。

- 令和元年度実績
- ・飛騨高山まちの博物館利用者数 195,859人(H30:179,806人)

市史編纂員等を講師とした「高山歴史講座」を3回開催した。延べ146人の参加があり、市民への啓発が促進された。

景観町並保存会や高山祭の屋台を保存する団体、地域の伝承芸能や文化財の保存団体に対して活動補助を行った。

- 令和元年度実績
- ・景観町並保存会に対する補助金 21団体
- ・高山祭の屋台保存に関する補助金 2団体
- ・指定文化財保存会に対する補助金 2団体
- ・史跡保存会に対する補助金 12団体

地域の有形無形の伝統文化や文化財の保存活用、美しい景観の保全などを目的に、3年以上活動している団体や個人を市長が認証する「美しいふるさと認証制度」について、今年度4団体を認証し、これまでの認証団体が131団体となった。各団体の活動を公的に認めることにより励みとなるほか、市広報誌などでのPRにより、活動の活発化につながった。

- 令和元年度美しいふるさと認証者
- ・民俗文化保存 1団体、景観保全3団体

高山市景観町並保存連合会の3つの専門部会において、市との連携により次の事業が行われた。「御朱印めぐり」では、次代を担う児童生徒を対象に、町なみの成り立ち、特徴などを啓発普及することができた。また、広報誌配布により、伝建地区および景観町並保存地域住民らに、近年の景観町並の保護に関する情報の周知が図れた。

- 【高山市景観町並保存連合会の活動実績】
- ・広報誌「町なみ飛騨高山」を制作し、各保存会や関連施設等に配付したほか、市ホームページに掲載した
- ・「下町発見！ご朱印めぐり」9月29日(日)開催 参加者:37人

進捗状況 ※計画年次との対応

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

状況を示す写真や資料等



「下町発見！ご朱印めぐり」の様子
(令和元年9月29日)

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
古い町並みを火災から守れ 上三之町で住民が消防訓練	令和元年11月8日	高山市民時報
大国台 半世紀ぶりの大修理完了	令和2年3月29日	朝日新聞、中日新聞、岐阜新聞、高山市民時報

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

元年度は、仏国ノートルダム寺院大聖堂や首里城など、国内外の文化財が被災消失する事件が発生し、文化財の緊急総点検や防災マニュアルの策定など、国県自治体あがての防火対策が全国にて実施される年になった。高山市内においては、国宝・国重要文化財及び県指定文化財(建造物)及び、国重要文化財(美術工芸品)を所蔵する博物館・美術館などの施設において防火マニュアルによる緊急総点検を実施したほか、伝統的建造物群保存地区においては景観町並保存連合会の各保存会単位で定例の消防訓練を実施し、住民それぞれが有事の備えを確認しあつた。

また、平成29年度より全解体の大修理を行っていた国指定重要有形民俗文化財「高山祭屋台」の大国台が、修理を無事に終え、テレビや新聞など数多くの媒体で報道がなされた。半世紀ぶり、かつ3年にも及ぶ大修理という点が注目されたと思われる。報道によって、文化財保存の重要性が広く発信されるとともに、地元住民たちが自らの文化に対して誇りを醸成する姿も見られた。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等

令和元年11月8日 高山市民時報より

令和2年3月30日 高山市民時報より

評価軸⑥-1
 その他(効果等)

	評価対象年度	令和元年度
--	--------	-------

項目

外国人観光客数の推移

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

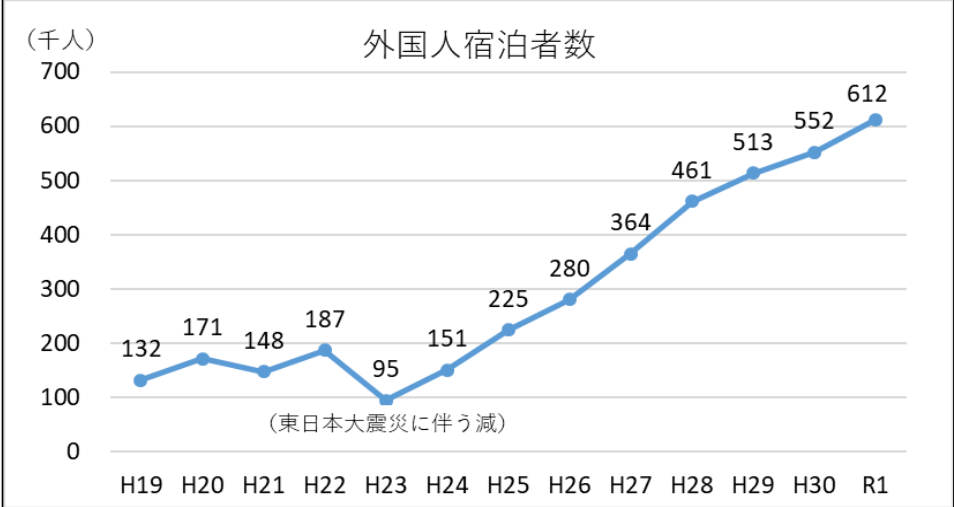
海外での積極的なトップセールスの展開をはじめとして、多言語化したホームページや観光パンフレット等による地域固有の歴史文化の情報発信、案内看板等の多言語化や中心市街地における無料Wi-Fi環境の整備等による受入体制の充実などにより、外国人観光客が年々増加しており、令和元年には過去最高の約61万人(宿泊者ベース)となった。
 今年度も平成30年度に引き続き、外国人旅行者の来訪実態を分析し、地域の歴史的風致を効果的に活用した観光振興につなげるため、ヒアリング調査を行い基礎データを収集した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

□計画の進捗に影響あり
 ■計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



外国人観光客数の推移

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和元年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 高山市歴史的風致維持向上計画協議会	
会議等の開催日時: 令和元年5月18日～6月3日(意見聴取)	
(コメントの概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物活用整備事業について、整備した建物の外観(色)の調整や施設に合う看板の設置を検討できないか。また、引き続き活用に取り組んでいただきたい。 ・歴史的町並保存事業について、防火対策と修理・修景を併せて引き続き取り組んでいただきたい。 ・伝統構法木造建築物耐震化事業について、引き続き取り組んでいただきたい。 ・無電柱化等事業について、地元と協議しながら実現に向けて取り組んでいただきたい。 ・郷土の歴史・文化の語り部育成事業、伝統行事担い手支援事業など、歴史や伝統文化を継承するためのソフト事業に引き続き取り組んでいただきたい。 	
(今後の対応方針)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物活用整備事業について、整備した建物は文化財調査に基づき、当初の色彩の復元を試みたもので、今後、毎年メンテナンスを行いながら、経年変化を確認していく予定。また、当該施設は、新型コロナウイルスの影響により開所が延期となったが、その間、事業効果の発現につながる取り組み等を実施し、今後の利活用を図る。 ・歴史的町並保存事業については、歴史的な景観を守るため、今後も継続的に取り組んでいく。 ・伝統構法木造建築物耐震化事業については、継続的に使用できる環境と伝統的な建造物の維持に取り組むとともに、大工等の伝統的な技法が伝承していくよう取り組んでいく。 ・無電柱化等事業については、地元や関係者との協議をすすめ、工事の実施に向けて引き続き取り組んでいく。 ・郷土の歴史・文化の語り部育成事業などについては、文化財の保存・継承体制の整備とともに、歴史遺産や伝統文化に親しむ場や機会の充実を図り、継承につながるよう引き続き取り組んでいく。 	